

# 第2章

## 目指す都市の姿

- 1 都市の将来像
- 2 将来都市構造
- 主要課題、視点、将来像、都市づくりの方針の関係

# 1 都市の将来像

「第5次越谷市総合振興計画」が掲げる『水と緑と太陽に恵まれた みんなが活躍する安全・安心・共生都市』を実現していくためには、本市の現況や都市づくりの主要課題を踏まえるとともに、SDGs\*の理念に沿った“持続可能性”の視点に立った都市づくりが必要不可欠です。

本計画では、これまでの都市づくりを継承しながら、更なる充実を目指し、本市が将来にわたって成長していくことができるように、“都市の持続可能性”を念頭に置き、4つの『都市づくりの視点』を整理し、それらを包括する2つの『都市の将来像』を掲げます。

また、都市づくりとの関係性が深いSDGs\*のゴールを「都市の将来像」と結びつけ、“都市の持続可能性”を確保した、総合的な都市づくりに取り組むものとします。

## 都市の将来像

人と環境にやさしい 暮らしやすい都市  
活力とにぎわいに満ちた 魅力あふれる都市



### コラム

## SDGs\*(持続可能な開発目標)の概要

○SDGs\*(エス・ディー・ジーズ)とは、「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称です。SDGs\*は、平成27年(2015年)9月の国連サミットで採択されたもので、平成28年(2016年)から令和12年(2030年)までの15年間の国際目標です。

○持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットで構成され、地球上の誰一人として取り残さない社会の実現を目指しています。

### ■SDGs\*の17のゴール



持続可能性

都市構造

- ・都市機能の集積
- ・交通体系の構築

暮らし

- ・安全・安心
- ・コミュニティ・交流

自然

- ・水と緑の保全・活用
- ・環境負荷の低減

活力

- ・拠点のにぎわい
- ・産業や観光の振興

人と環境にやさしい 暮らしやすい都市



- 都市機能の集積や交通などのネットワークの充実を進めることで、高い生活利便性を有した、誰にとっても暮らしやすい都市を目指します。
- 水と緑の保全・活用を図りながら、人と自然が共生し、災害に強い都市づくりを進めることで、安全で安心な自然と調和した都市を目指します。

活力とにぎわいに満ちた 魅力あふれる都市



- 人やモノが集まり、にぎわいと交流を創出する拠点づくりを進めることで、都市の魅力向上と経済活性化を促進し、市民が誇れる都市を目指します。
- 自然環境や歴史ある文化資源などの地域特性を活かした都市づくりを進めることで、新たな産業や観光などの地域資源が生まれ、多様な人々が集まる活気ある都市を目指します。

「第5次越谷市総合振興計画」の  
将来像の実現へ

「第5次越谷市総合振興計画」では、将来の都市構造の基本的な考え方について、次のように位置づけています。

本市では、鉄道駅周辺の地域を中心に生活利便性の高い市街地の形成を進めるとともに、市街地周辺に広がる農地の保全・活用や既存集落の維持といった周辺環境との調和を図りながら、だれもが暮らしやすい集約型のまちづくりに取り組んできました。

今後も、これまで進めてきた鉄道駅周辺や西大袋地区などを拠点として位置づけ、それぞれの特性に応じた都市基盤の整備・充実やメリハリのある土地利用を図り、人口減少や少子高齢化の進行、気候変動や自然災害、社会・経済情勢の変化などに対応した、持続可能なまちづくりを推進します。

以下に将来人口やまちづくりのキーワード等を踏まえた将来の都市構造の基本的な考え方を掲げます。

### 集約と連携によるまちづくり

人口減少や少子高齢社会に対応し、生活利便性の維持・向上や地域経済の活性化等を図っていくためには、効果的・効率的な都市経営に資するまちづくりが求められます。

本市は、鉄道駅周辺を中心とした市街地内に人口が集中しており、密度の高いコンパクトな市街地が形成されていますが、今後は人口減少の進行に伴い、市街地の低密度化が懸念されます。質の高い高密度な市街地を維持していくため、生活の拠点となる鉄道駅周辺などに、暮らしを支える都市機能の集積を図るとともに、拠点と居住地が鉄道網や道路網などの多様なネットワークでむすばれた集約と連携によるまちづくりを目指します。

### 都市活力の向上・創出に資する土地利用

将来にわたって活気あふれる都市を維持していくためには、人やモノが集まり、にぎわいと交流を創出する拠点形成が求められます。

本市においては、既存の各拠点の機能の維持・充実を図るとともに、産業・観光分野などにおける地域振興により、にぎわいを創出する魅力あるまちづくりを目指します。

また、鉄道や道路などの都市基盤の整備が進められるエリアについては、その利便性を活かした新たな拠点の可能性の検討など、都市活力の向上に資する節度ある土地利用を図ります。

### 都市と自然が調和した災害に強い都市構造の形成

SDGsへの貢献に向けた持続性のある都市の実現には、地球環境への負荷の軽減や国土強靱化による自然災害への対応など、自然環境との調和を図った、安全で安心なまちづくりが求められます。

本市は、市街地の内外に農地や社寺林、緑道などの多様な自然資源を有しており、都市生活に潤いとやすらぎを与える役割を果たしていることから、引き続き、水と緑の保全・活用を図りながら、開発と保全のバランスのとれた、都市と自然が調和したまちづくりを目指します。

また、平坦な地形のなかに多くの河川・水路が流れるという本市の地理的特性上、水害をはじめとする自然災害への備えが重要となるため、災害の危険性に考慮しながら、都市基盤や防災体制の強化を図るなど、災害に強い安全・安心な都市構造の形成を図ります。

「第5次越谷市総合振興計画」では、将来像の実現に向けた6つのまちづくりの目標を、SDGs\*(持続可能な開発目標)の17のゴールと結びつけています。

**目標① 多様な人が交流し、参加と協働により発展するまちづくり**



**目標② みんなが健康で共生して住み続けられるまちづくり**



**目標③ 都市と自然が調和した集約と連携によるまちづくり**



**目標④ 持続可能で災害に強い安全・安心なまちづくり**



**目標⑤ 魅力ある資源を活かし、都市の活力を創造するまちづくり**



**目標⑥ みんなが主体的に学び、生きがいを持って活躍できるまちづくり**



## 2 将来都市構造

将来都市構造とは、都市の将来像を実現するため、本市の特徴・課題を踏まえた、将来あるべき「都市の骨格」となるイメージを明らかにするものです。

### (1) 基本的な考え方

本市は、東武鉄道伊勢崎線(東武スカイツリーライン)やJR武蔵野線を中心に市街地が形成され、鉄道駅周辺には市民の生活利便性を支える商業や業務などの多様な都市機能の集積がみられるなど、鉄道駅を中心に徒歩や公共交通を利用して暮らせる都市構造の素地が整っています。

近年は、越谷レイクタウン地区などの都市基盤\*の整備が完了し、人々の住まいや観光・交流の場として、更なる発展が期待されています。

一方で、人口減少や少子高齢化が進む中で、将来にわたって持続可能な都市として維持・成長していくためには、効果的・効率的な都市経営を行っていくことが重要です。

また、水害などの自然災害に備えるためにも、まちの強靱化に向けて、災害の危険性を考慮しながら、都市基盤\*や防災体制の強化など、災害に強い都市づくりを進める必要があります。

こうした中、本市の将来都市構造については、「集約連携型都市構造」の実現を目指し、都市機能と人口密度が維持・充実した質の高い市街地を確保しながら、区域区分\*制度に基づいたメリハリのある土地利用を推進するとともに、これまでに形成されてきた市内における様々な拠点の維持や機能強化に努めつつ、これらが道路網や公共交通網など多様なネットワークにより有機的に連携した都市づくりを推進します。



## (2) 将来都市構造

(1)の基本的な考え方を踏まえ、「拠点」「軸」「ゾーン」の3つの観点から、それぞれの役割を明確にし、集約連携型都市構造の実現に向けた本市の将来都市構造を次のように定めます。

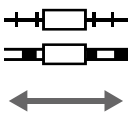

### ■『拠点』の位置づけ・役割

都市活動の中心として、多くの都市機能や人々が集まり、それぞれの役割に応じた求心性を有する場を「拠点」として位置づけます。

名称	役割
<b>都市拠点</b> 	<input checked="" type="checkbox"/> 行政機能や文化機能、商業・業務機能、医療・福祉・子育て支援機能、交通機能など、多様な都市機能が集積する都市の顔となる拠点。 <b>対象</b> 越谷駅、新越谷駅・南越谷駅周辺。
<b>生活拠点</b> 	<input checked="" type="checkbox"/> 日常生活を支える商業・業務機能、医療・福祉・子育て支援機能、交通機能などの維持・充実を図る拠点。 <b>対象</b> せんげん台駅、大袋駅、北越谷駅、蒲生駅周辺。
<b>文化教育創造拠点</b> 	<input checked="" type="checkbox"/> 行政機能や文化機能、商業・業務機能、医療・福祉・子育て支援機能、教育・研究機能など、多様な都市機能が集積する市北部の拠点。 <b>対象</b> 西大袋地区周辺(西大袋土地区画整理事業地は、生活拠点としての役割も担う)。
<b>観光・交流拠点</b> 	<input checked="" type="checkbox"/> 市内外からの広域的な利用にも対応した、本市の観光・交流を支える拠点。 <b>対象</b> 越谷レイクタウン駅周辺(越谷レイクタウン駅周辺は、生活拠点としての役割も担う)、越谷総合公園及び越谷いちごタウン周辺。
<b>産業拠点</b> 	<input checked="" type="checkbox"/> 産業振興を支える工業・流通機能が集積する拠点。 <b>対象</b> 流通業務地区*、荻島地区。
<b>緑・親水拠点</b> 	<input checked="" type="checkbox"/> 水と緑を活かしたスポーツ・レクリエーション*や憩いの場として、市民の健康と交流を支える拠点。 <b>対象</b> 越谷総合公園、しらこぼと運動公園、出羽公園、平方公園、県民健康福祉村、大吉調節池、大相模調節池。
<b>医療拠点</b> 	<input checked="" type="checkbox"/> 高度な医療機能を有する、市民の医療・福祉を支える拠点。 <b>対象</b> 市立病院周辺、獨協医科大学埼玉医療センター。

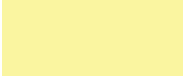

## ■『軸』の位置づけ・役割

本市の周辺都市や拠点間をつなぎ、人やモノの円滑な移動や活発な交流を促進するための鉄道や主要な道路、河川などを「軸」として位置づけます。

名称	役割
<b>都市連携軸</b>  鉄道・駅 道路	<input checked="" type="checkbox"/> 周辺都市や市内の各拠点をつなぎ、人やモノの円滑な移動を支える鉄道や道路によるネットワーク。 <b>対象</b> 鉄道や主要な道路。
<b>水と緑の軸</b> 	<input checked="" type="checkbox"/> 都市に潤いを与え、市民の憩いの場や生態系の確保の場となる河川や緑道によるネットワーク。 <b>対象</b> 主要な河川や水路。

## ■『ゾーン』の位置づけ・役割

同じ特性・役割を担う、連続した土地利用の広がりをもつ「ゾーン」として位置づけます。

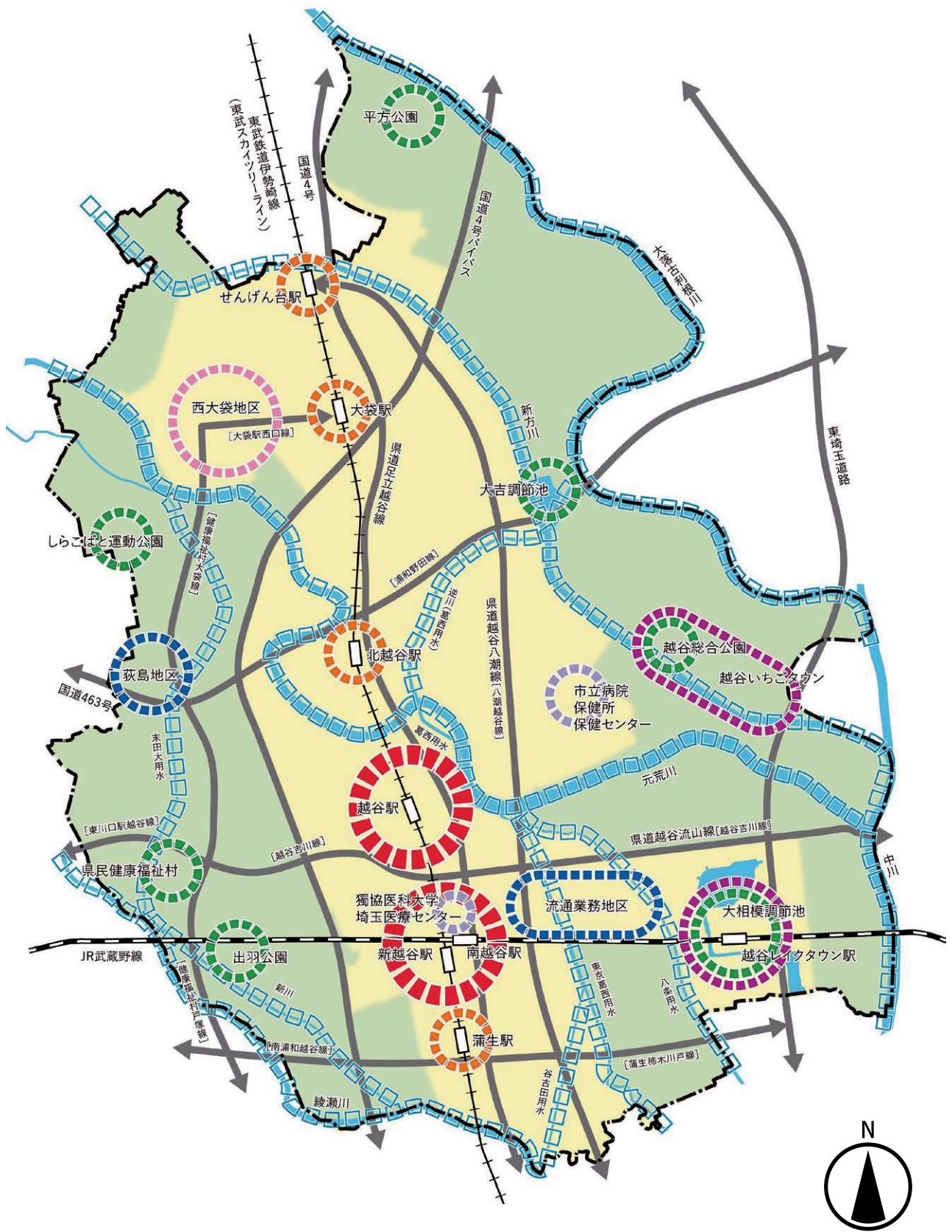
名称	役割
<b>市街地ゾーン</b> 	<input checked="" type="checkbox"/> 質の高い市街地形成を図り、都市機能と人口密度の維持・充実を図るゾーン。 <b>対象</b> 市街化区域に指定されている市街地。
<b>農地・集落ゾーン</b> 	<input checked="" type="checkbox"/> 無秩序な市街化の拡大を抑制しつつ、農地の保全や既存集落*の良好な生活環境の形成を図るゾーン。 <b>対象</b> 市街化調整区域の農地及び既存集落*。



もとあらかわ  
元荒川と市街地



# ■将来都市構造図(イメージ)



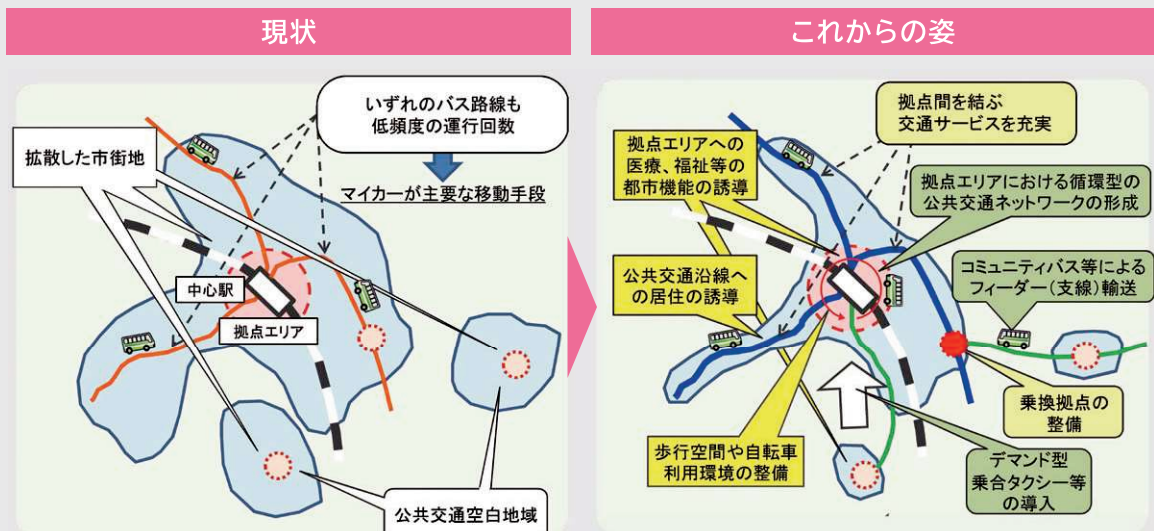
	都市拠点		産業拠点		[都市連携軸] 鉄道・駅		市街地ゾーン
	生活拠点		緑・親水拠点		[都市連携軸] 道路		農地・集落ゾーン
	文化教育創造拠点		医療拠点		水と緑の軸		行政界
	観光・交流拠点						

※ [ ]内は都市計画道路名称

0 500 1,000 2,000メートル

## コンパクト・プラス・ネットワーク\*

- 住宅や商業施設、医療・福祉施設などの生活サービス施設がまとまって立地し（コンパクト）、住民が公共交通や徒歩などにより、これらの施設に容易にアクセスできる（ネットワーク）、まちづくりの考え方です。
- 居住や都市機能の集積により、住民の生活利便性の維持・向上、地域経済の活性化、行政コストの削減、低炭素\*型の都市構造の実現などを目指し、持続可能な都市・社会を実現することが期待されています。



資料：国土交通省

- 本市においても、これまでの都市づくりを継承しながら、この考え方を踏まえた「集約連携型都市構造」の実現を目指す都市づくりを推進します。

# ○主要課題、視点、将来像、都市づくりの方針の関係

